

みちわくどっち 道輪口説

(本調子)

そら ながつき はじ よも もみじ
1. 空も長月 初めごろかや 四方の紅葉を

そ しぐれ ぬ おじか
2. 染める時雨に 濡れて牡鹿の

さび お つ
なくも寂しき 折りに告げくる

かり はつね こころう とも う つ
3. 雁の初音に 心浮かれて 互に打ち連れ

い のはら ききょうかるかや はぎ にしき
4. 出づる野原の 桔梗刈萱 萩の錦を

い まね おばな そで ゆうかぜ
5. きても見よとや 招く尾花が 袖の夕風

ふ み ゆうひいりえ あま こども
6. 吹くも身にしむ 夕日入江の 海土の子供や

さお そで ぬ なみぢ
7. 棹のしづくに 袖を濡らして 波路はるかに

おき こ い つき ひがし
8. 沖に漕ぎ出で 月は東の

やま こ ま いま
山の木の間 今ぞほのめく

1. 空も長月(旧9月)の初め頃になり
四方の景色も紅葉の季節になってきた

2. 降りしきる時雨に濡れて牡鹿が鳴く声が
寂しく時折聞こえてくる

3. 雁の初音に心を誘われて
共に野山に出てみた

4. 出てみた野原には桔梗や苧萱や萩が
錦のように彩られている

5. 来てみよとばかりに招く尾花に近づくと
袖には秋の夕風が吹いている

6. 秋風が身にしみるというのに
夕日に映える入江の海土の子供のことが
偲ばれる

7. 船を漕ぐ竿のしづくに
袖を濡らして沖のほうへ

8. 沖に漕ぎ出ると月は山の木々の間から
ちらほらと見えている

舞踊「秋の踊り」

工 五 七 八 四七 五工五尺 工 四 合

四らりつてくお 乙ものももの 四なはのみみし 上がつはよにす 四つねらとしく 乙きのにやむに 四 はこきまゆそ 四じこきねうて 乙めろくひを 四こうかおいぬ 上るかるばりら 四かれかなえし 合 やてやがのて 工

五よとはそあな 七ももぎでまみ 五ののののじ 工もうにゆこは 尺みちしうどる 工じつきかもか 四おれえおおお 合 おおおおぜえあ にいいい

四 合 3~7番へ 乙そお 四めき 乙るに 四しこ 上くぎ 四れい 乙にて 四 ぬつ 尺れき 上てわ 四えあ 四おひ 上じが 尺かし

工の 尺 七なやなび 五くま 工もの 尺おお 工おお 五さこ 工びの 尺いお 上しま 老いあ

四きた 乙 四 五おい 七りま 五にぞ 工つば 尺げの 工くめ 四 るうくう 合

1. 空も長月 初めごろかや 四方の紅葉を
2. 染める時雨に 濡れて牡鹿の なくも寂しき 折りに告げくる
3. 雁の初音に 心浮かれて 互に打ち連れ
4. 出づる野原の 桔梗刈童 萩の錦を
5. きても見よとや 招く尾花が 袖の夕風
6. 吹くも身にしむ 夕日入江の 海土のこどもや
7. 棹のしづくに 袖を濡らして 波路はるかに
8. 沖に漕ぎ出で 月は東の 山の木の間に 今ぞほのめく